

耳が聞こえない映画監督。そして「ミニユニケーシヨンについて考え続ける映画監督である。ろうのサー・フィン店主に迫る「珈琲とエンピツ」（2011年）

も、自身が自転車で日本縦断する「Start Line」（16年）も、なぜ伝わらぬか、どうすれば伝わるか、を考える映画だ。

新作「友達やめた。」（19日公開）はアスペルガー症候群の友人まあちゃんとの交遊を撮った。「どうしたら、彼女とうまくやつていいけるだろう。映画を撮ることでそれを考えたかった」無防備に自分をさらけ出すまあちゃんに、監督も心を開いた。「まあちゃんも私もマイノリティー。仲良くなれる」ところが現実はトラブル続

き。仕事で、食事で、旅先で、2人の緊張は高まる。「少数派同士と思つていただけど、まあちゃんは私を多数派と見る。私は初めて多数派の立場に立たされて戸惑つた。言葉が彼女を傷つけないかと悩んだ」

「それはろう者に対する健常者の気持ちと同じだった。こちらはストレートに言つてほしいのに、ストレートに言えない。聞こえる人の気持ちがわかつた」「アスペだから」と我慢するのをやめた。まあちゃんそのものと向き合おう。

「多数派、少数派でくくるのでなく、一人ひとりを見つめたい。一まとめにくつてしまふと、その人のものが見えなくなる」

小学生のころ「父が借りてきた字幕付きの洋画のビデオを見て、映画に目覚めた。寂しさを忘れさせてくれた」。米国で映画を学び、帰国後には学校のドキュメンタリーを撮り「映画の伝える力を実感した」。

そして今は「自分がよく生きるために、考えるために撮っている」。41歳。

## 今村 彩子さん 「友達やめた。」を監督

